手もみの実演
手摘み体験
まきのはら茶づけ
牧之原男子カフェ

いざ！新茶の季節到来

３月15日、茶業関係者が集まり、新茶の順調な育成と茶業の発展を願い、ＪＡハイナン茶業センター茶ぐりんで「新茶祈願祭」が開催されました。祈願祭後には、「新茶まつり」が行われ、多くの人でにぎわいました。新茶の呈茶や料理、手摘み体験などにより、訪れた皆さんは新茶の季節到来を感じ、楽しんでいました。

問い合わせ　お茶特産課　永田　☎53-2621

新茶まつりの来場者に聞きました

家族でお茶漬けを食べる
藤原和樹 さん

新しい発見があった

まきのはら茶漬けや新茶の天ぷら、手もみのお茶を初めて食べましたが、すごくおいしかった。
県内に住んでいても、普段食べることがないので新しい発見があり良かった。これからもっと広めていってほしい。

新茶を味わい楽しむ
大石美里 さん

お茶は生活の一部

私にとってお茶は、生活に欠かせないものです。普段からお茶を急須で入れ、家族みんなでお茶を楽しんでいます。
お茶はほっとした気持にさせてくれます。今年もおいしいお茶ができることを期待しています。

お茶の若手生産者に聞きました

手もみ保存会
横山嗣人 さん

お茶の魅力も届けたい

皆さんには、手もみ体験で手触りや香りなどの五感を使い、お茶を作り飲んで、本物のお茶を知ってほしい。
また、お茶はつくる場所や人、入れ方などで味が変化する個性的なものという魅力も伝えたい。

ＪＡハイナン青壮年部長
西谷祥治 さん

全国にアピールしたい

品質も味も一番というお茶をつくり、「おいしいお茶は牧之原」と全国的に広めたい。
また、生産だけでなく、消費者や子どものことを考え、お茶カフェやTEA HERO選手権の取り組みも続けていきたい。

お茶と共に生きる

身を切る冷たい風が、包み込むような暖かい風に変わるこの季節。市が一番にぎやかになり活気にあふれる、新茶の季節到来です。

牧之原市は県内でお茶の生産量が一番の「お茶のまち」です。一面に広がる牧之原大茶園は、萌黄色のじゅうたんへと景色が変わり、見る人を和ませます。この地に住む私たちにとって、お茶は日々の生活の中で身近な存在です。

おいしいお茶をいつでも味わえる幸せを感じ、お茶がある生活を堪能してください。

お茶を盛り上げる

静岡牧之原茶の魅力をもっと全国に知ってもらえるよう、茶業関係者や市が一緒になって取り組んでいます。

今年の1月には、市内の小学校5年生全員が参加する「第6回TEA HERO選手権」が開催されました。お茶に関するクイズや見た目、味で5種類のお茶を判別する問題が出題され、これまで勉強したお茶に関する知識を競い合いました。

第1回大会から参加した児童は2607人を数え、この子どもたちが、静岡牧之原茶の魅力を伝え、広めていってほしいと期待しています。

また、2月には市内でお茶カフェを出展している茶農家や茶商の皆さんが集まり「まきのはら協奏曲（コンチェルト）」が開催されました。

空港に隣接する高尾山石雲院には、おいしいお茶とお菓子を楽しもうと多くの人が訪れました。

訪れた人たちは、ただお茶を味わうだけでなく、それを生産した茶農家さんや茶商さんと触れ合い、お茶談義に花を咲かせ楽しい時間を過ごしました。

いつも身近に

お茶を楽しむ機会はイベントだけではありません。普段あまりお茶になじみのない人にも、静岡牧之原茶を楽しんでもらおうと、さまざまな取り組みを行っています。

市内の農家で組織する「牧之原市認定農業者協議会」では、婚姻の届出に訪れるカップルに急須とお茶をプレゼントしています。

また、毎年7月には小学校3年生を対象にお茶教室を開き、参加した子どもたちに急須をプレゼントし、家族みんなでお茶に親しんでもらうよう取り組んでいます。

さらに、子どもの3歳児健診の際には、市職員が母親などを対象にお茶の入れ方教室を開いています。若い世代がお茶を学び、家庭でもお茶を飲む習慣が生まれることで、子どもの健やかな成長に役立つとともに、お茶がとても身近な存在になるはずです。

私たち一人一人が、お茶に触れあえる楽しさや豊かさなどを実感し、みんなで「静岡牧之原茶」を全国に発信していきましょう。

萌黄色の茶畑
甘くまろやかな
静岡牧之原茶
TEA HERO選手権
まきのはら協奏曲
家族でお茶を楽しむ